生活排水などの汚染量が削減 「河川浄化チャレンジ 月間」の結果を報告 芦田川環境マネジメントC

芦田川の水環境改善を目指す官民ネットワーク「芦田川環境マネジメントセンター」AEMC（事務局 福山市西町2-10-1・エフエムふくやま内、田中宏行会長、電084・920・8777）は、昨年11月に実施した「家庭で出来る水質浄化の取り組み」の実践を呼びかける「河川浄化チャレンジ月間」の結果を報告した。

この取り組みは瀬戸学区や津之郷小学校、御野小学校、中条小学校の協力を得るなど瀬戸川・高屋川各流域を中心に、一般の芦田川流域住民にも広く実践を呼びかけた。

取り組み内容は、①排水口にネットをかけて、調理くずや食べ残しを流さない②汚れのひどい鍋、食器類は、ふき取って

から洗う③食用油は直接流さず、紙にしみ込ませたり、固めたりして捨てる④食器類を洗う時に、洗剤の使用量を減らす⑤洗濯の時に、洗剤の適量使用を心がける―の5項目。

水質調査結果では、事前調査前の降雨の影響などにより水質改善効果の正確な数値が把握しづらかったものの、生活排水等の汚れの量が削減されており、AEMCでは「これは多くの流域住民が、家庭での水質浄化に取り組んだ結果が出た」と評価している。

チャレンジ月間の実施前と実施中調査を比較すると、瀬戸川流域においては水中の硝酸の量（SS）は40%、リンの量（T-P）は23%、水中の汚れ量「BOD値」（mg/l）ミリグラムパーリットル）は1%減少した。また、高屋川流域ではSSが25%、T-Pは24%、BODは23%減少した。

取り組みの参加者からは「当たり前のこととして、ずっと続けていきたい」「子ども達も食器類の汚れをふき取るようになったので、意識が高まっていると思う」など、反響が寄せられた。